

# 平成29年度 教育事業 曾爾ボランティア養成研修 第1回



## 1. ねらい

- ①青少年教育施設の概要、運営、事業等について理解する。
- ②ボランティアとして必要となる知識・技能を習得する。
- ③ボランティア活動の内容や役割、対象者等について理解し、活動の楽しさ、自然のすばらしさを体験する。

## 2. 実施日

4月22日（土）～4月23日（日） 1泊2日

## 3. 対象者

高校生以上

## 4. 参加者 / 募集定員

22名 / 20名

(高校生：16名、大学生6名)

## 5. プログラム (要約)

本事業は、施設ボランティアとして、自然体験活動を支援するために必要な資質の確保並びに、ボランティア活動の意義や知識・技能の習得を目指し、施設ボランティアの役割やボランティア活動の魅力を伝えることを目的に行われた。また、当施設の使い方や様々な野外活動の実施方法なども含めて、ボランティアとして今後必要な力を「体験」を通して身につけるとともに、参加者が互いにコミュニケーションをとることができるプログラムを実施した。

### スケジュール

#### 4月22日（土）1日目

「アイスブレイク」

「青少年教育の理解」

「救急法」

「キャンプファイアー・キャンドルファイアー」

「ふりかえり」

#### 4月23日（日）2日目

「青少年教育施設の役割・運営」

「野外炊事」

「ボランティア活動の意義と理解」

## 【1日目】4月22日（土）

アイスブレイクで緊張をほぐした後、NPO法人 地球元気村 自然学校 校長 奥田博氏から、「青少年教育の理解」として、ボランティア活動の意義やボランティアとして必要となる基本的な知識、技能について講義を受講した。さらに午後は、「救急法」の講義・演習を日本赤十字社奈良県支部救命救急法指導者 今井 啓之氏から受講し、心肺蘇生法並びにキャンプや自然体験活動等で起こりうる身近なケガや事故への対応について学習した。

夜は、キャンプファイアーの薪組みから流れなどの基礎基本を学び、実際に仲間と火を囲みながら盛り上がった。1日目の最後として、参加者同士、意見交換をしながら、今日の目標達成度などをふりかえった。



## 【2日目】4月23日（日）

「青少年教育施設の役割・運営」の講義のあと、野外炊事を行った。薪割や火おこしなどを実際に体験し、仲間と試行錯誤しながら、カレーライスを作った。

午後は、現役ボランティアから曾爾ボランティアの魅力や活動について体験談や活動の概要を聞き、「曾爾ボランティア」について理解を深めた。最後は法人ボランティア登録についての説明を受け、登録を済ませた。



## 6. まとめ

2日間の講義や演習を通して、青少年教育施設における「ボランティア」の役割や「ボランティア活動」の意義を理解するとともに、様々な自然体験活動や自然の家の使い方、ルールなど、施設の活動・生活の基礎基本を学ぶことができた。また、現役ボランティアや参加者同士、仲間との関わりの中で、お互いに高めあえる有意義な研修となった。

「体験の大切さを実感できた」「これからは楽しみ」「参加者から主催者（ボランティア）の視点で、様々なことを学ぶことができた」など、今後の活動につながる意欲的な感想や意気込みが多く聞かれ、一人ひとり「ボランティア」として新たな一歩を踏み出した。

(企画指導専門職 岡野 ころろ)